

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
エブソン情報科学専門学校		昭和63年12月5日		小林敏一		〒 392-0001 (住所) 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) 0266-58-7410			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人エスイー学園		昭和63年12月5日		阿部栄一		〒 392-0001 (住所) 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) 0266-58-7410			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業分野専門課程	情報システム科		平成 7(1995)年度	-	平成30(2018)年度			
学科の目的		本校は「セイコーエブソン株式会社」が地域の強い要望である質の高い情報系、工業系技術者の共有にこたえる目的のために、工業分野の専門過程を設置し、技術および知識を習得させ、中堅技術者として社会に貢献できる人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		特徴: ハードウェアまたはソフトウェアに偏ることなく、情報技術(IT)を支える要素を幅広く学ぶ学科。 資格取得: 基本情報技術者、ITパスポート(国家資格)、C言語プログラミング能力認定試験、Javaプログラミング能力検定試験、情報システム試験(J検) 退学率: 概ね1%前後							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,400 単位時間	330 単位時間	2,070 単位時間	単位時間	単位時間	
		94 単位		単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
100 人	51 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		23 人						
	■就職希望者数(D)		23 人						
	■就職者数(E)		23 人						
	■地元就職者数(F)		14 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		61 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日現在の情報								
(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) セイコーエブソン(株)ほか							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無						
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.se-gakuen.ac.jp								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				2,400 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				1,710 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				1,710 単位時間				
	うち必修授業時数				1,710 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				1,710 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				1,710 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
	うち必修授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人				
	計				3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業ニーズ(求人・育成)を逐次把握しながら「社会から必要とされる自立した学生」の育成を図るとともに、年々変化している「市場の技術動向」に合わせ、カリキュラムの最適化を進める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
当校設立の母体であるセイコーエプソン株式会社をベースに教育課程編成委員会を組織する。
同社の専攻部門から委員だけでなく、組織の要である人事部の部長および課長をも委員とする。
委員会において、現状の企業ニーズ、技術動向等を見守り、カリキュラムを決定する。
当校教務部会にその意見を反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
伊藤 正敏	長野県情報サービス振興協会 南信支部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
高橋 一哲	セイコーエプソン(株)IT企画設計部 部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和3年9月10日 14:30～15:30
第2回 令和4年2月18日 10:50～11:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
今年度では、以下を実施した。
・コンピュータ基礎教科数を1コマ増加。
・ロジカルシンキングの授業を通じ得る物が大きい。成果(効果)に繋がっていることから、卒論、就活に繋げる。
・WEB応用にAWS、クラウドサービスを盛り込む。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 当校設立母体である、セイコーエプソン株式会社より、当校に社員を出向させ常勤講師、非常勤講師として、企業に求められる授業カリキュラムを実施する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 セイコーエプソン株式会社出向社員が担当(授業の運営～生徒の評価)している。 対象科目は、以下のとおり。 全学科共通科目:「就職活動対策」、「数学基礎」、「ビジネス実務」、「特別研修」。 情報システム科の専門科目は「プログラミング言語基礎」、「C#言語」、「Java言語」、「データベース」、「卒業研究」。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
就職活動対策	自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。面接対策等実践力を養う。	セイコーエプソン(株)
数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。 具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。	セイコーエプソン(株)
プログラミング言語基礎	プログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識を習得し、プログラミングに必要な論理的な考え方を身につける。	セイコーエプソン(株)
C#言語	C#によりデスクトップアプリケーション開発のプログラミング技術の基礎を習得する。	セイコーエプソン(株)
Java言語	Java言語の基礎習得とGUIアプリケーションの作成を通じ、Android用アプリケーション開発環境構築できるようにする。	セイコーエプソン(株)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 関連分野の技術動向や企業が求める人材像に対応するため、教員は関連する知識・技能の習得に努める。 職業実践専門課程運用規定(C710-ISC)にて明確化。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	e-ラーニング「情報セキュリティ基礎2022」	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2022年7月1日～7/29	対象: 教職員
内容	環境変化とともに変化するサイバー攻撃への対応を習得	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	アンガーマネジメント研修2022	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2022/7/27	対象: 教職員
内容	怒りの感情と、どう向き合えば良いのか	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	e-ラーニング「情報セキュリティ教育2023」	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	予定	対象: 教職員
内容	情報の取り扱い、サイバー攻撃事例に学ぶ	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	人事部主催研修	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2023/10/1～2024/3/31	対象: 教職員
内容	指導力向上の趣旨に沿う、人事部主催研修を受講する	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

公表時期: <http://www.se-gakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

情報システム科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			英語基礎	英語のアレルギーをなくすために、自分の意思を簡単な英語で正しく伝えられるための表現、および基本的な文法を身につける。	1通	60	2		○		○				○
2	○			国語基礎	国語筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には新聞記事の要約を通して読解力をつけ、語彙力の定着を図る。	1通	60	2		○		○				○
3	○			数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。併せて計算の速度向上を目的として都度プリント課題による計算トレーニングを行う。	1通	60	2		○		○				○
4	○			就 職 活 動 対 策	就活本番に備え、自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。前期は自己分析と職種研究を主体とし、後期は書類作成、面接対策等実践力を養う。	1通	60	2		○		○		○		○
5	○			ビ ジ ネ ス 実 務	就職活動をする上で、社会人としてのマナーが必要とされている場面で対応できる人材になるよう実践、実習を盛り込みながら習得する。	1通	60	4	○			○		○		○
6	○			特別研修	各学科別にふさわしいテーマを設定し個別指導または自主学習を行うことで各学生の重点分野の習得強化を図る。	1通 2通	180	8	○			○		○		
7	○			文 書 作 成 ・ 表計算	Microsoft Word、Excelの基礎的な操作を習得し、企業実務におけるビジネス文書作成能力やデータ処理、分析能力を身につける。	1通	30	1	○			○		○		
8	○			コ ン ピ ュ ー タ 基 礎	コンピュータ及びネットワークの仕組みを理解し、ハードウェア・ソフトウェアを使いこなせる人になるための基礎を学び、情報処理技術者試験合格に求められる基礎力を養う。	1通	120	8	○			○			○	
9	○			プ ロ グ ラ ム ン グ 言 語 基 礎 （C/C++ 言 語）	プログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識を習得し、プログラミングに必要な論理的な考え方を身につける。	1通	270	9		○		○		○		○
10	○			C#言語	C#によるデスクトップアプリケーション開発のプログラミング技術の基礎を習得する。	2前	90	3		○		○		○		○

11	○			Java言語	Java言語の基礎習得と、GUIアプリケーションが作成できるようになることで、Android用アプリケーション開発環境構築をできるようにする。	2 通	120	4		○		○		○			
12	○			システム開発	システム開発の工程を理解した上でシステム開発の上流工程である要件定義の重要性を理解し、具体的な実践方法を習得する。	1 後 2 前	90	3		○		○				○	○
13	○			データベース	データベースとは何か、SQLとは何かを理解し、基本的な操作が出来るレベルを目指す。また、MySQLを使用してSQLステートメントの基礎を理解しデータベースの操作を習得する。	1 通 2 前	210	7		○		○		○			
14	○			Web基礎	Webページの基礎技術であるHTML5、CSS3、JavaScriptを基礎から学習する。また、JavaScriptフレームワークVue.jsを用いたSPA作成の基礎を学ぶ。	1 通	120	4		○		○				○	
15	○			Web応用	Webのバックエンド技術とフロントエンド技術を並行して学び、自らの今後の技術領域に合った内容をより深堀できる、隣接する技術を知る。	2 前	120	4		○		○				○	
16	○			ロジカルシンキング	専門職遂行に必須な基礎の論理的思考力を習得する。ミニテストを課題を繰り返すことで、論理を構成する情報構造の知識を習得し、根拠の明確な主張や議論が可能なレベルを目指す。	1 通	120	8	○			○				○	
17	○			AI概論	今後のAIの発展に追従できるように、AIを活用するために必要な基礎知識を習得するとともに、AI分野で最も利用されるPythonの基礎を習得する。	2 前	60	2		○		○				○	○
18	○			卒業研究	2学年前期までに学習したことをもとに、自らテーマを決めて研究に取り組む。	2 通	30	1		○		○		○			
合計						18	科目	2400 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業は各学科の履修科目の定められた全単位の修得及び学生必須資格を取得した者。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：履修方法は講義受講または演習の実施による。		1 学期の授業期間	15 週

(別紙様式2-1)

実習・演習等において連携する企業等一覧

(工業分野専門課程 情報システム科)

	名称	位 置 (所在地)	授業科目名	選任理由
1	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	就職活動対策	企業において求められる人材像を知ること、活躍できる人材を育成するため。
2	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	ビジネス実務	社会人としてのマナー、身につけたい知識を先取りで学び、就職活動や入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。
3	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	特別研修	企業で役立つ専門資格取得サポートを行うため、主要専門授業を担当する講師を選任する。
4	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	プログラミング言語基礎	企業におけるシステム系業務必要とされるプログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識を習得するため。
5	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	C#言語	企業におけるシステム系業務で必要とされるデスクトップアプリケーションプログラミング開発の技術であるC#言語の基礎知識を習得するため。
6	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	Java言語	企業におけるシステム系業務で必要とされるJava言語の基礎知識を習得するため。
7	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	システム開発	企業におけるシステム開発の工程および要件定義の重要性を理解し実践方法を習得するため。
8	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	データベース	企業におけるシステム系業務で必要とされるデータベース、SQL文等の基礎知識を習得するため。
9	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	AI概論	企業におけるAI活用に必要な基礎知識を習得するため。
10	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	卒業研究	1年次に学習した内容から、企業での業務との関連を考慮したテーマを決め論文としてまとめあげるため、主要専門授業を担当する講師を選任する。

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	就職活動対策	授業時数又は単位数	60時間(2単位)
実施期間	1年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	就活本番に備え、自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。前期は自己分析と職種研究を主体とし、後期は書類作成、面接対策等実践力を養う。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	企業において求められる人材像を知り、活躍できる人材を育成する。		
企業等との連携内容	① 自己分析・職種研究 ② 書類作成・面接対策		
学修成果の評価方法	出席状況・課題提出状況		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	「職業/仕事とは?」「自分にとっての就職活動とは?」について考える。様々な観点から仕事への理解を深め、自分に合った職種探しの一助とする。自己分析、職種分析を行うことにより、方向性を見定め、自発的に就職活動に取り組めるようにする。	231・232教室	
後期	就職活動の実施に向け、実践力を養う。12月下旬から始まる就職活動開始を想定し、書類作成、面接対策を重点に準備を進める。	231・232教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	ビジネス実務	授業時数又は単位数	60時間(4単位)
実施期間	1年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	就職活動をする上で、社会人としてのマナーが必要とされている場面で対応できる人材になるよう実践、実習を盛り込みながら習得する。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	社会人としてのマナー、身につけたい知識を先取りで学び、就職活動や入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。		
企業等との連携内容	① ジョブパス3級取得に向けた講義・演習 ② 自己紹介プレゼン ③ 品質管理 ④ 原価計算初級		
学修成果の評価方法	①③④ 各検定試験受験状況 ② 出来映え		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	社会人基礎力となるビジネスマナーを、ビジネス能力検定ジョブパス3級取得に向けた学習を通じて身に付け、実践に役立てる。	222教室	
後期	品質管理、原価計算の基本を学ぶことで、企業で活躍するために役立つ知識を身に付ける。また、実用的なビジネス数学を学び、実務に関わる数字に対する感度を高める。	222教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	特別研修	授業時数又は単位数	120時間(8単位)
実施期間	1年次(前期・後期)、2年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	各学科別にふさわしいテーマを設定し個別指導または自主学習を行うことで各学生の重点分野の習得強化を図る。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	資格取得のサポートを行うため、主要授業を担当する講師を選任する。		
企業等との連携内容	資格取得サポート(計画・実行のフォロー) 推奨資格の選定		
学修成果の評価方法	資格取得の状況		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容		実施場所
前期	各自計画的に資格取得に励む		222教室(1年次) 223教室(2年次)
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	プログラミング言語基礎	授業時数又は単位数	270時間(9単位)
実施期間	1年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるシステム系業務で必要とされるプログラミング言語の基本であるC言語の基礎知識を習得する。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す。		
企業等との連携内容	①アルゴリズムの理解 ②演算、分岐、繰り返し、配列、関数、文字列、ポインタの学習 ③プログラミングの理解 ④構造体 ⑤ファイル処理 ⑥オブジェクト指向言語		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物、ミニテストにより評価		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	①アルゴリズムの理解②演算、分岐、繰り返し、配列、関数、文字列、ポインタの学習、③プログラミングの理解	222教室	
後期	④構造体 ⑤ファイル処理 ⑥オブジェクト指向言語	222教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	C# 言語	授業時数又は単位数	90時間(3単位)
実施期間	2年次(前期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるシステム系業務で必要とされるC# 言語の基礎知識を習得する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す		
企業等との連携内容	C#によるデスクトップアプリケーション開発のプログラミング技術の基礎を習得する		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物、ミニテストによる評価		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	C#の基本、例外処理ほか、各種機能を学びオリジナルアプリケーションの制作をおこなう	223教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	Java言語	授業時数又は単位数	120時間(4単位)
実施期間	2年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるシステム系業務で必要とされるJava言語の基礎知識を習得する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す		
企業等との連携内容	Java言語の基礎の習得とGUIアプリケーションが作成できるようにし、併せてAndroid用アプリケーション開発環境も構築できるようにする		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	Javaの基本、例外処理ほか、サーブレットなどの理解	223教室	
後期	Android用プログラミング環境の構築とアプリケーション作成	223教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	システム開発	授業時数又は単位数	90時間(3単位)
実施期間	1年次(後期)・2年次(前期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるシステム開発の工程および要件定義の重要性を理解し実践方法を習得する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す		
企業等との連携内容	①要件定義の調査 ②業務要件の解説と演習、グループ討議 ③UMLをベースとした要求定義手法を習得 ④業務フローから機能要件整理のグループ演習		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容		実施場所
1年後期	①要件定義の調査 ②業務要件の解説と演習、グループ討議		222教室
2年前期	③UMLをベースとして要求定義手法を習得 ④業務フローから機能要件整理のグループ演習		223教室
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	データベース	授業時数又は単位数	210時間(7単位)
実施期間	1年次(通期)・2年次(前期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるシステム系業務で必要とされるデータベース、SQL文等の基礎を習得する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す		
企業等との連携内容	①データベース、SQLの理解 ②テーブル、サブクエリ、データベース設計の基本を習得 ③MySQL、ADO、NETの基本を習得		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1年後期	①データベース、SQLの理解 ②テーブル、サブクエリ、データベース設計の基本を習得	222教室	
2年前期	③MySQL、ADO、NETの基本を習得	223教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	AI概論	授業時数又は単位数	60時間(2単位)
実施期間	2年次(前期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業におけるAI活用に必要な基礎知識を習得するため		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業でのシステム系スキルの活用ができる事を目指す		
企業等との連携内容	今後のAIの展開に追従できるように、AIを活用するために必要な基礎知識を習得するとともに、AI分野で最も利用されているPythonの基礎を習得する		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題や演習の成果物		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
2年前期	今後のAIの展開に追従できるように、AIを活用するために必要な基礎知識を習得するとともに、AI分野で最も利用されているPythonの基礎を習得する	223教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報システム科)

授業科目名	卒業研究	授業時数又は単位数	630時間(21単位)
実施期間	2年次(通期)		
実習・演習等の目的及び概要	1年次に学習した内容から、企業での業務との関連も考慮したテーマを決め論文としてまとめあげるため、主要専門授業を担当する講師を選任する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	就職後、企業での最新システム系スキルの活用ができることを目指す		
企業等との連携内容	1年次に学習した内容から、企業での業務との関連も考慮したテーマを決め論文としてまとめあげる		
学修成果の評価方法	出席状況、発表、成果物にて評価		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
2年通期	1年次に学習した内容から、企業での業務との関連も考慮したテーマを決め論文としてまとめあげる	223教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		